

平成27年度は“気づき編”として、今一度身近な自然に目を向けて「自然の不思議を発見する」、「生駒のまちなかのみどりに気が付く」ことを目的に、1回完結の体験型講座を開講した。対象を小学生とその保護者に広げてきたが、まだまだ、取り込めたとは言い難く、平成28年度は、気づき編を引き続き開講しながら、平行して従来の里山づくり編を“里山編”として開講し、ボランティア養成を系統だてて行うこととする。

また、「森林ボランティアを養成する」という目的をはっきりさせるためには、里山編は必須と言える。しかし、いきなり里山編を受講するのはハードルが高いと考え、2段階に分けることで、徐々にボランティア養成を行っていくことが有効であると考えた。

▶**第1段階** 気づき編 … 実習や体験に重点を置き、講座受講の敷居を低くし、楽校の存在を知ってもらう

- 一講座内では、実習や体験で終わるのではなく、花や緑に関心を持ってもらうための効果もなくてはならないため、次につなげるための30分程度の学びの時間をとり、その講座に関する資料を持ち帰ってもらう
- 参加して終わりではなく、参加者の所属感(例:開催場所をできるだけ同じところにする、1回参加すれば会員登録するなど)を出すなどの工夫により、各講座間に連続性を持たせる

▶**第2段階** 里山編… 花や緑に関心を持っているが今まで活動を行ったことがない人が、踏み出す一歩となる講義と実習内容とする。

- **対象** 子育て世代・子育てに余裕がでてきた若年層
- **人数** 各講座の内容による(15~20人)
- **参加費** 500円/回
- **場所** 山麓公園野外活動センター、花のまちづくりセンターふろーらむなど
- **募集方法** 講座ごとに広報紙・HPにより募集、参加者に次回の募集チラシを配布、その他学校・公共施設等に募集チラシ配布など
- **その他** 毎回講座に関する資料(花や緑のコラム)を配布
1回でも参加した方には、会員証(スライス名札など)を配布し、所属感を持たせて次回につなげる
参加者には、毎回アンケートを実施
参加者には、名前・住所・連絡先を聞き、今後の情報発信をする